

山の女神は微笑んだか、はにかんだか

鳥海山 下玉田川ルート (仮称)

古野

【日時】 2009年5月3日(日)～5日(火)

【メンバー】L手嶋、古野、飯田、鈴木、坂村

5月3日

「鳥海山のルートはいくらでも取れる。だって15度おきにカットしていけばいいのだから。」と飯田さんが前泊の道の駅鳥海で言っていた。実は今回のルートと昨年の布沢ルートは15度も離れていないのだ。ケーキで言えばかなり薄いカットになる。

それにしても山頂アタック予定の5/4の天気予報がイチバン悪い。鳥海友の会の尾木原パーティーは連休前半の快晴の中を千蛇谷から成功している。5/3に祓川ルートをやってしまったおうという意見もあったが、そうすると5/4の意欲も薄れるだろうし、迷った末に予定通りの計画とすることに。(最悪は5/5に祓川から往復するか・・・)

昨年の布沢への入り口からさらに法体ノ滝方向に車を進め、ため池の所から入山する。ここには相模と新潟ナンバーの車が止まっていた。山行中には出会わなかったが同じようなルートを狙っているのだろうか。

雪はまあまあ多い方であるが沢沿いは切れ落ちていて進みにくく、尾根方向に追いやられる。苦勞するかも、と思っていた支尾根の乗越しの所は藪コギとなったがほんの10m位で、まあ良いアクセントとなった程度である。予定の二俣手前ではあったが沢沿いのブナ林にある絶好のテン場が我々を誘った。明るく気持ちが良い。白雪川のテン場に雰囲気似ている。

さっそくいつものようにたき火の準備、釣りへと自然になだれこむ。山菜もそこそこあり、そば粉を使った天ぷらは思ったより香ばしくて春の香りを楽しめた。

昨年釣りの師匠となった渡辺さんの代わりに今年は鈴木さんが沢の恵みの師匠に格上げされた。ルアー持参の飯田さんは自分が魚になってしまい、初泳ぎを楽しんだ(?)らしい。

寒が入っているようでたき火をしても日がかげると寒くなる。まだ明るいのでテントに移動して山菜のバリエーション料理を楽しむ。予報よりは天気の崩れは少なそうだ。



5月4日

晴れてはいないが高曇り、という感じでまあ何とか行けるところまで行こう。6時間

の登行を予定して6時には出発。やはり沢の近くは斜面もきつく、藪も多いので北側の尾根沿いを選んでいく。藪は少なく気持ちの良いブナ林が広がっている。

1150m位から左岸の細い尾根を詰めようとしたが藪で右の沢状に逃げる。4月末に降ったと思われる白い雪がまだらのように散らばっている。ここを抜けると広い斜面となり木々もまだらになる。前方の急斜面を避けて右に回り込むと、見たような風景が。ここは昨年休憩し、下りに赤布を探して右往左往したところだ。1500m付近で布沢ルートに合流してしまったコトになる。

ここからは山頂近くの人が見えるようになり、まだ上部はガスに包まれているものの何とか行けそうな気持ちになる。しかしこのあたりから足には錘が着いたような気分。2月初めのヒザの故障以来あまり山に入っていないせいだろうか。それでもみんなの「ゆっくりでいいですよ」という慰め(励ましか)に甘えて先頭を歩く。猿倉口からの人の顔が見えるようになってくると今度はガスでその顔が薄まっていく。山頂直下は10m程度の視界になってしまい左右の気配を感じながら上に登っていく。そして見覚えのある岩の連なりが急に現れるとそこは山頂だった。ちょっと余計に時間がかかったがとうとう登ることが出来た。



ガスはかかっているし寒いので早めに降りよう、ということで下り始める。白い雪の部分は抵抗が大きくて滑りにくく茶色に近い色の雪を選んでいくとルートがずれてしまった。そう、

今年は地図入りのGPSという強力な武器があるのでガスの中でも慌てないのだ。ただ滑りはガスの中では楽しくない。下るにつれて視界は急に広がり、滑りの長さも長くなっていく。坂村さんもうまいものだ。ふと振り返ると山頂付近のガスが取れてきた。「あれっ、あわてて降りなければ良かったなあ」といっても遅い。まあ天気予報からすれば鳥海の女神は微笑んでくれたことになる、が恥ずかしくてはにかんでしまったのではないかね。



すっかり回復した天気と顔も晴れ晴れとして滑りを楽しむ。ほんとに鳥海はこれだからやめられない。かなり先の方に単独のスキーヤーが我々と同じようなルートを滑っていく。「どこまで行くのかね」「もしかして亡霊



ではないよね」と気にしていたが1300m位まで同じルートだった。登りと同じルートを下る場合の地図入りGPSの威力はすごい。ちいさな尾根のズレもわかってしまう。安心感としてのアナログ的な赤布と併用すれば鬼に金棒である。

滑っている楽しみと同じかそれ以上にテン場に着いたときの充実感、一口目のビールは今更ながら至福としか言いようがない。

そば粉が無くなったので片栗粉で天ぷらをやってみたが、これは弾けてしまって天ぷらにはならなかった。それでも鈴木師匠は沢の恵みを与えてくれ、今年は酒を取りに車まで戻ることなく宴を楽しめた。

5月5日

ゆっくりと目を覚ますが、抜けるような真っ青な空が目飛び込んできた。実はテン場から鳥海の山頂が見えたのだった。空気が澄んで幾分近くに見えるとは言え、はるかに遠くに見える山頂へ一日で往復できるのだから人間の力はすごいね、と予定ルートを完遂した余裕からわずかな微笑みで話をするのもまた楽しというところか。

スキーを縛り付けてツボ足で支尾根を越える。ザックが重いとちょっと滑りにくい。とはいうものの車道まではあっという間である。すっかり観光気分ですりキチ三平のロケ地として売り出し中の法体ノ滝を見物し、いつもの笹子（じねこ）峠を越えて春の正しい日本の山村の風景を堪能した。

今年は例年持って行っている鯉のぼり（小さいおもちゃ）を忘れてきたので、もしかしたら山頂へ行けないかも、と内心心配していたが、女神の微笑み（はにかみ）とみんなの励ましのおかげで完遂できた。ありがとうございました。

【行程】 5/3 ため池出発(12:55)～下玉田川750m二俣下BP(14:20)

5/4 BP(6:10)～小尾根を戻る(8:20)～1528m布沢ルート合流(9:40/9:55)～鳥海山頂(12:20/45)～BP(15:00)

5/5 BP(8:30)～ため池の車止め(9:20)

【地図】 鳥海山

